

少人数・習熟度別授業の実践と課題について

岐阜県立可児高等学校

1. 本校の概要と生徒の実態

本校は今年で創立27年目を迎えた比較的新しい公立普通科高校である。本校では、ほとんどの生徒が国公立大学への進学を希望しており、その実現のため従来より習熟度別のクラス編成を行っており、現在では1学年8クラスのうち3クラスの習熟度クラスと5クラスの普通クラスに編成している。また、2年次より希望別に文系・理系でのクラス編成も行っており、2年生は文系4クラス理系4クラス、そのうち文系1クラス理系2クラスを習熟度クラスとし、3年生は文系5クラス理系3クラス、そのうち文系2クラス理系1クラスを習熟度クラスとしている。また、本校の教育課程は以下の通りである。

本校の教育課程

	数学Ⅰ	数学Ⅱ	数学Ⅲ	数学A	数学B	数学C
1年	3			3		
2年		3			2	
3年		文4	理4		文2	理3

2. テーマの設定理由

(1) 少人数授業の導入

本校の数学の授業では数学Ⅰ・Ⅱ（理系はⅢ）について、3年前の2003年度より単純分割の少人数授業（以下、少人数授業）を取り入れてきた。その理由として、新課程で学んできた生徒に対して学力の低下が叫ばれてきた時代の中で、その生徒達が入学する年でもあり、また近年の可児高校において学力の差が目立つようになったため、その生徒達のフォローを毎時間の授業においても行っていくために少人数授業を取り入れてきた。その際、習熟度別に分割するかどうかという話もあったが、クラス編成において習熟度別の編成をしている中でさらに習熟度別の分割を行うことの生徒の心理的不安のマイナスも考えられ、単純分割とすることとなった。

(2) 少人数習熟度別授業の導入

この3年間で少人数授業の成果は徐々に見られ、学力差が以前よりは少なくなってきたこと、さらに生徒の心理的不安のマイナスは少ないだろうと考え、今年から学力の下位層の生徒に対してのフォローのみだけでなく、生徒全員の進路実現のために学力の上位層、中間層の生徒に対しても更なる学力向上を図るために、少人数授業に加えて習熟度別にクラスを分割して授業を行うこととなった。

以上の経緯から、発表を機会に少人数授業における3年間の取組の成果を整理し、さらに少人数習熟度別授業について研究していくことにした。

3. 研究内容・方法

(1) 少人数授業の取組に対して

クラスの分け方については、2クラスを3つのクラスに分割する方法を基本とし、クラス数によっては1クラスを2つのクラスに分割するクラスもある。（例：文系普通クラスが3クラスの場合、

1 クラスは2つのクラスに分割し，2 クラスは合わせて3つのクラスに分割する。習熟度別クラスも同様)

- ①担当者から見た少人数授業における利点と問題点を整理し分析する。
- ②過去数年間の全国模試の結果を年度別，時期別に比較することで学力の下位層の成果を分析する。
- ③生徒のアンケートをもとに少人数授業に対する意見を整理する。

(2) 少人数習熟度別授業の取組に対して

クラスの分け方については，少人数授業の分け方を基本として，それぞれのクラス毎に習熟度別に分割をする。

・習熟度別クラス編成の材料

1 年生・・・入学試験，クラス編成に利用する英数国テスト，4月の課題テスト

2 年生・・・1年次の後期中間考査，1月課題テスト，学年末考査

3 年生・・・大学入試に対する精神的不安も考え，完全に生徒の希望により分割

(文系：基本クラスの希望者とその他，理系：上位クラスの希望者とその他)

①2年生が少人数授業を経験していることから，2年生を中心にアンケート結果から少人数習熟度別授業に対する意見を整理する。

②担当者から見た少人数習熟度別授業における利点と問題点を整理し，分析する。

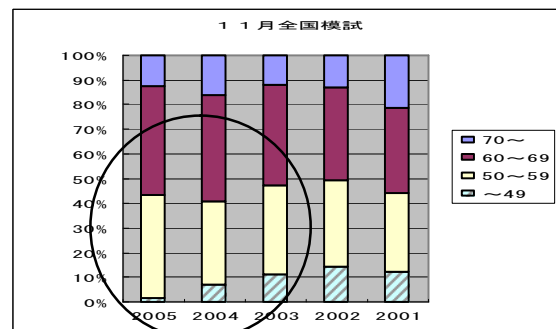
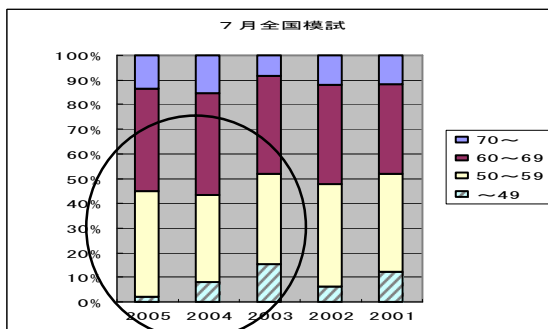
4. 研究の成果

(1) 少人数授業について

①担当者から見た少人数授業における利点と問題点

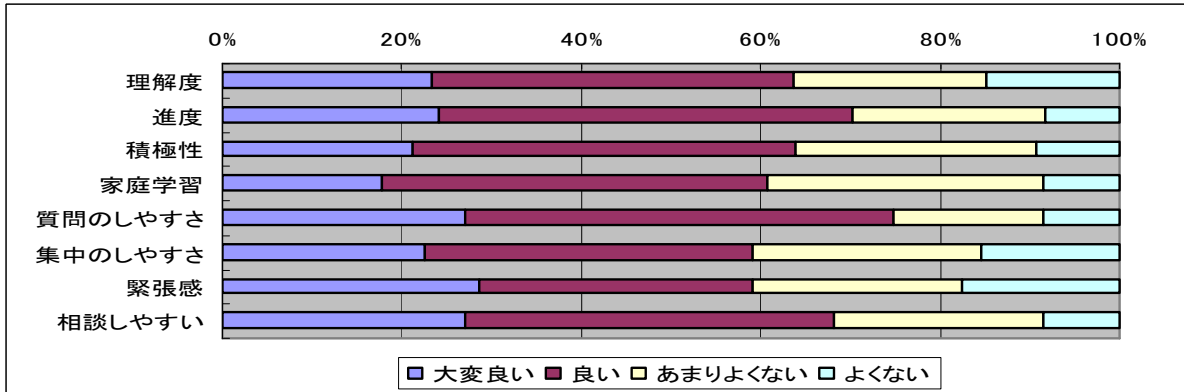
利 点	問 題 点
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の理解度を把握しやすく，それに合わせて指導ができる。 ・宿題をこまめにチェックすることができるので，生徒一人一人の学習状況の把握と学習習慣を身につけさせる指導ができる。 ・生徒の授業に対する要求が見やすく，個人指導がしやすい。 ・生徒一人一人に目が行き届き，対話形式に授業がしやすく，それによって生徒の授業に対する集中力が高まる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・並列する授業との進度に差が出やすい。 ・机間指導に時間をとられすぎると，理解できている生徒の集中が途切れる。 ・学力差があるので進度や内容に影響がある。 ・質問が活発にできる生徒に指導が偏りがちになってしまう。

②過去5年間の全国模試の結果



少人数授業を実施し始めた2003年度入学生は予想通り、学力の下位層が例年に比べて多かったが、この模試の結果から7月から11月までの期間での下位層の減少は見られ、また年度ごとに見ても下位層の減少ははっきりと見られる。このことから、少人数授業の成果はあったと判断でき、また年度ごとに少人数授業における質の上昇もあったのではないかとと思われる。

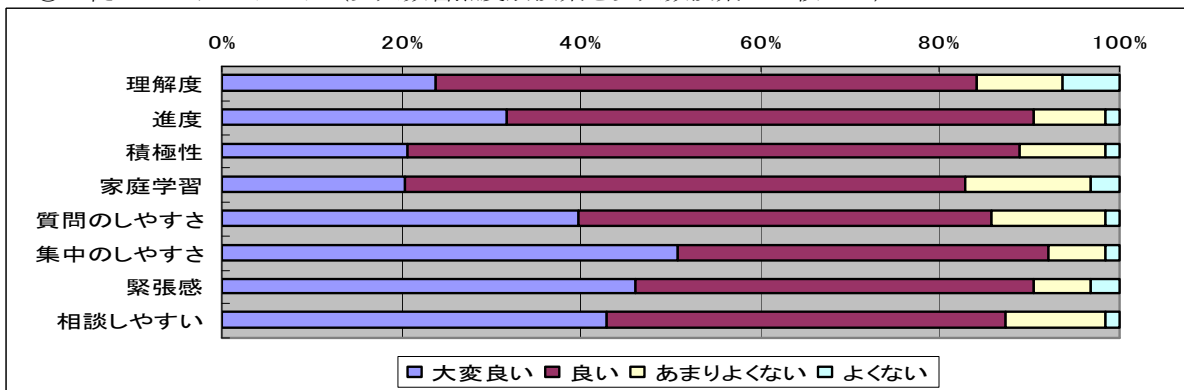
③生徒のアンケートより（少人数授業を40人授業と比較して）



いずれの質問にも6割以上の生徒が好感をもっていたようではあるが、その反面人数が減ったというだけで多少雰囲気等は変わるが内容的には変わらないという意見もあり、参考にするところではある。

(2) 少人数習熟度別授業について

①生徒のアンケートより（少人数習熟度別授業を少人数授業と比較して）



・上位クラスの意見

○進捗や内容が自分達のレベルに合っていて分かりやすい。○みんなが頑張るので自分も頑張れる。○上位クラスに残りたいって思って頑張れる。○自分のレベルが分かり向上心がもてる。○宿題がやってあるかどうかというレベルではなく、みんなで一生懸命理解しようという高次的な授業になる。○難しい問題に集中しやすい。●頑張れるけど、成績が落ちたときのことが不安。●クラス替えがあるときは焦る。●上位クラスにいると余裕な気持ちになって怠けてしまう自分もいる。

・下位クラスの意見

○ほとんど同じレベルの人なので、分からないところを一緒に少しずつ解いていけるのでより身につく。○宿題や復習を定着させられるようになった。○進捗がちょうどよく、理解しやすい。○上のクラスに上がろうという目標がもてた。○「勉強してる」って思える。●少し難しい問題になると、質問が多すぎて進捗が遅れる。●クラス替えで落ち込む。

いずれの質問にも8割以上の生徒が習熟度別の分割に好感をもっているようである。その中で、

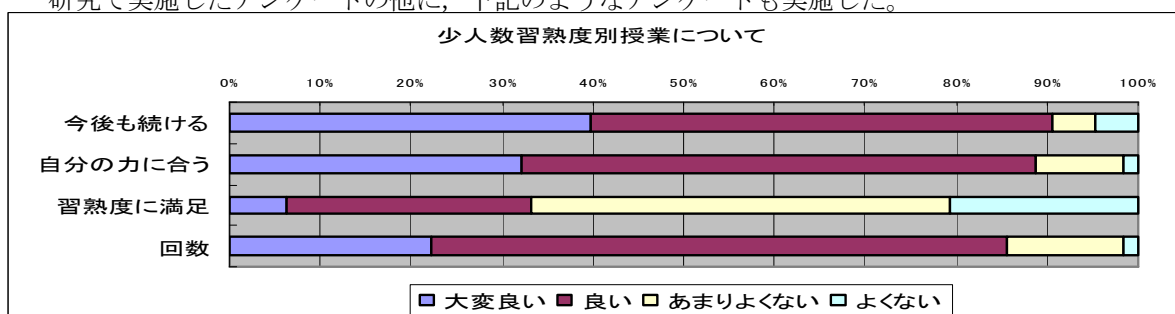
クラス替えに対してのプレッシャーが今のところ大半の生徒がいい意味で影響を受けてはいるが、今後そのプレッシャーが良くない雰囲気を作ることがないように精神面の配慮をしていく必要がある。

②担当者から見た少人数習熟度別授業における利点と問題点

利 点	問 題 点
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のニーズに合わせた授業を行いやすい。 ・生徒の理解度を以前より強く意識するようになった。 ・生徒に合わせた問題が選択しやすく、個人指導がしやすい。 ・生徒も自分にあった進度で授業が展開されるので飽きる生徒がいなくなる。 ・習熟度でクラスが分かれるので目標ができ、生徒のやる気が起きやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入れ替えによって教科担当が変わるので、様々なところで繁雑になる。 ・レベルに差があまりないので生徒同士の教え合いの場が減る。 ・下位のクラスにおいて、分からない生徒が同調してやる気がおきない部分も少なからずある。

5. まとめと今後の課題

研究で実施したアンケートの他に、下記のようなアンケートも実施した。



質問項目にある「習熟度に満足しているか」という質問に対して、全体の6割以上が満足していないとあるが、その理由としては「もっとできるようになりたいから」「上のクラスに行きたいから」といった内容ばかりで前向きな意見であった。その他に関しても全体の9割近くの生徒が少人数習熟度別授業に好感をもっており継続していきたいという気持ちをもっていることがわかる。

以上のことから、40人授業に比べて少人数授業の方が、また単純分割の少人数授業に比べて習熟度別少人数授業の方がおおむね良いようではあるので続けていきたい。しかし、先に述べたような少数意見がこれからの課題となってくると思うのでさらに研究をしていかななくてはならない。

具体的には、①クラス分けの基準・・・1, 2年生のように考查結果で分割すると、クラス替えに対する精神的不安のケアについて検討しなければならない。3年生については大学入試に対する精神的不安を考慮して完全希望制にしてあるので精神的な不安は心配ないのだが、希望と実際の習熟度の差が大きい生徒に対しては厳しい授業となることから、どのような基準で分割するか、その方法について研究していかなければならない。②クラス分けの人数配分・・・上位クラスの人数, 下位クラスの人数を習熟度別クラス, 普通クラス, 文系, 理系それぞれで適正はどれ位か研究する必要がある。③各レベルのクラスにおける授業内容・・・各レベルのクラスごとにしっかりとした指導内計画を作成してクラス間, 教員間での授業内容を合わせる必要がある。今年度はまだ始めたばかりで収集した情報も今後どのように変化していくかわからないので、さらに多くの情報を収集していきながらさらなる工夫あるいは新しい授業方法を研究していきたいと思う。